

第 57 回大会準備状況

第 57 回大会は、2013 年 10 月 13 日（日）・14 日（月）に福岡大学で開催します。10 月に開催するのは、9 月の台風シーズンを避けることを第一に考えたからです。

シンポジウムは、いま教育改革論議のなかで大学教育改革が声高に叫ばれている状況から、次のような企画・趣旨で開催することにしました。大会開催当日は、宿舎不足が予想されます。宿舎は早めに押さえておいてください。

テーマ「大学の歴史を大学教育の視点から振り返る」

日 時：2013 年 10 月 13 日（日）14:00～17:45

場 所：福岡大学「A棟」401 講義棟

報告者：井ノ口淳三会員（追手門学院大学）

渡辺かよ子会員（愛知淑徳大学）

中村 勝美会員（広島女学院大学）

指定討論者：

別府 昭郎会員（明治大学）

湯川 次義会員（早稲田大学）

司会者：船寄 俊雄会員（神戸大学）

松本 和寿会員（筑紫女学園大学）

テーマ設定の趣旨：

教育史学会は、2011 年 10 月の第 55 回大会において「教育史研究における大学史研究の位置」と題するシンポジウムを行った。そのなかで、大学史研究は教育史研究、否、歴史学研究そのもののなかでどのような意義を有するのか、また大学史編纂がいかなる価値を生ぜしめるのかについて有益な論議が繰り広げられた。

ただ、教育学研究のなかで大学史を論じるにあたり、大学教育とその担い手である教育者（教授等）について歴史的に考察することが課題として残されたといえる。

いま国際社会は、高等教育の大衆化のなかで、ローニャ・プロセスにみられる大学教育の標準化による質の向上と、そのなかで指摘されたディプロム（ディグリー）・ミルなど学位のばらまきが論議されている。グローバル化と科学技術の進展にみあった大学教育の高度化への要求と、大学の大衆化

に伴う大学教育の質の低下の狭間にあって、大学がそのレズン・デトルをどこに見出すかで苦悩していると言えよう。

もはやマス段階を越えてユニバーサル・アクセス段階に突入したわが国の大学も、産業界などからグローバル化社会でのリーダーとなり得る高度な人材育成が求められ、そのための大学教育の質の向上が問われている（日本経団連「グローバル人材の育成に向けた提言」2011.6.14.）。「大学教育の見直し」などを選挙公約にかかげて政権政党に返り咲いた自民党は、教育再生実行本部を立ち上げ「大学教育の強化分科会」（座長：山谷えり子）を設けた。同分科会では「大学教育の質の保証徹底の義務化」が唱えられている（「中間取りまとめ」2012 年 11 月 21 日）。高度な人材育成のための大学教育の質の向上が叫ばれる一方で、リメディアル教育にみられる中等教育の補完、やり直しなどの必然性に迫られている大学も多い。

明治期以降、ヨーロッパ型（特にドイツのフンボルト理念に基づくエリート向け）研究大学、アメリカ型の実学・教養大学の両方の機能を併せ持ってきた日本の大学は、46 答申や臨教審などによって、研究専門の大学、高度職業人養成の大学、一般教養教育の大学といった三類系に分化すべきことを論じられてきた。そして設置基準の大綱化（1991 年）や大学院重点化によって、この三類系を基礎とする大学のヒエラルヒーが強化され、大学院大学への傾倒化と教養教育の軽視が見られる事態となっている。だが、今日こそ、被教育者（学生）にとって教養教育が重要な時はないだろう。日本経団連も、先の提言のなかで、グローバル人材を育成するために

真っ先に重要なのは、「リベラル・アーツ教育の拡充」と訴えている。

そもそも専門教育と教養教育は相反するものなのであろうか。いな、大学教育は歴史的にどのように考えられてきたのだろうか。そして大学教育は何を理想としてきたのであろうか。そして大学教育を担う教授は如何にあるべきとされてきたのだろうか。本シンポジウムでは、これらの議論を教育史の視点から根本的に問うてみたい。

そこで、コメニウスの大学教育論、日本の大学教育論、イギリスの大学教育論をそれぞれ歴史的に振り返ることによって、大学教育の在り方、大学教授のあり方について考察を深めていきたい。

研究発表やコロキウムの時間割は、前回のお茶の水女子大学での第56回大会（米田俊彦開催実行委員長）に準じて設定する予定です。多くの会員の皆様の発表・企画の申し込みをお待ちしております。

詳細は、別紙「開催の案内」をご参照ください。例年通り、大会に関することはホームページで随時お知らせします。学会のホームページにリンクいたしますので、ご参照ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第57回大会開催準備委員長
勝山 吉章



機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員会委員長 木村 元

機関誌編集委員会を5月6日に上智大学で開催し、『日本の教育史学』第56集掲載論文を下記のとおり決定しました（所属は4月現在に編集事務局に届けられたもの）。

投稿受理論文数は、日本17本、東洋2本、日本・東洋複合1本、西洋6本でした。今回は、投稿論文のうち、文字数超過等により4本が不受理となりました。編集委員会では二重投稿問題と併せてこの点を重く見てチェックリストの提出などを制度化し形式的な要件で起きる問題を回避すべく準備を行いました。できる限り来年度より具体的なかたちで対応したいと考えます。今後とも投稿する方は十分に注意をお願いします。

- (1) 明治10年代における教育事務の再編
-「行政国家」形成の視点から-
湯川文彦（日本学術振興会特別研究員）
- (2) 筑摩（長野）県の教育をめぐる名望家層の位相
-民権派教員との関わりから-
塩原佳典（京都大学大学院・院生）
- (3) 富士川游と治療教育学
-教育病理学における“治療”と“教育”の架橋-
前田晶子（鹿児島大学）
- (4) 小学校社会科教科書『あかるい社会』と桑原正雄
-資本制社会における「郷土」を問う教育の地平-
須永哲思（京都大学大学院・院生）
- (5) 戦後日本の家族計画運動における受胎調節指導の変容
-実地指導員としての助産婦の役割拡大と困難化-
高木雅史（中央大学）
- (6) 台南神学校『校友会雑誌』（1928-）にみる「台湾人」意識
三野和恵（京都大学大学院・院生）
- (7) 能力心理学としての骨相学
-能力概念形成史の視角から見たその教育史的意義-
平野 亮（神戸大学・研究員）
- (8) F. G. ボンサーによる初等教育カリキュラムの開発過程
-インダストリア・アーツの性格とプロジェクトの系譜-
遠座知恵（東京学芸大学）

* 図書

- ・河合隆平『総力戦体制と障害児保育論の形成ー日本障害児保育史研究序説ー』緑陰書房 2012.2.25
- ・キリスト教学校教育同盟 百年史編纂委員会『キリスト教学校教育同盟 百年史』キリスト教学校教育同盟 2012.6.7
- ・キリスト教学校教育同盟 百年史編纂委員会『キリスト教学校教育同盟 百年史 ー資料編ー』キリスト教学校教育同盟 2012.6.7
- ・平子恭子『與謝野晶子の思想形成と思想』おうふう 2012.9.25
- ・高橋文博『近代日本の倫理思想ー主従道徳と国家ー』思文閣出版 2012.9.25
- ・新しい歴史教科書をつくる会 編著『歴史教科書盗作事件の真実』加瀬英明 自由社 2012.10.25
- ・志村聡子『埼玉学園大学研究叢書 第6巻 一九三〇年代日本における家庭教育振興の思想ー「教育する母親」を問題化した人々』三元社 2012.10.31
- ・広瀬信『イギリス技術者養成史の研究ー技術者生成期から第2次世界大戦までー』風間書房 2012.11.30
- ・小林正泰『関東大震災と「復興小学校」ー学校建築にみる新教育思想』勁草書房 2012.12.20
- ・神辺靖光『明治前期中学校形成史 ー府県別編Ⅱ 環瀬戸内海ー』梓出版社 2013.1.10
- ・竹中暉雄『明治五年「学制」ー通説の再検討ー』ナカニシヤ出版 2013.1.16
- ・森田伸子『言語と教育をめぐる思想史』勁草書房 2013.1.25
- ・奈須恵子・山田昭次・永井均・豊田雅幸・茶谷誠 一編『遠山郁三日誌 1940～1943年 ー戦時下ミッション・スクールの肖像ー』山川出版社 2013.2.10
- ・伊達文治『日本数学教育の形成』溪水社 2013.2.20
- ・遠座知恵『近代日本におけるプロジェクト・メソッドの受容』風間書房 2013.2.28
- ・森田尚人・森田伸子 編著『教育思想史で読む現代教育』勁草書房 2013.3.25
- ・樋浦郷子『神社・学校・植民地 ー逆機能する朝鮮支配ー』京都大学学術出版会 2013.3.31
- ・下島知志『南原繁の共同体論』論創社 2013.4.20

* 紀要・ニューズレターなど

- ・フェリス女学院 150年史編纂委員会『フェリス女学院 150年史資料集 第1集 ー関東大震災 女学生の記録ー』フェリス女学院 150年史編纂委員会 2010.12.1
- ・明星大学戦後教育史研究センター『戦後教育史研究』第25号 明星大学戦後教育史研究センター 2011.12.1
- ・神奈川県立歴史博物館『特別展 ペリーの顔・貌・カオ ー「黒船」の死者の虚像と実像ー』神奈川県立歴史博物館 2012.7.5
- ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科『名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 紀要』第59巻 第1号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 2012.9.1
- ・フェリス女学院 150年史編纂委員会『フェリス女学院 150年史資料集 第2集 ー近代女子教育 新学制までの軌跡 学校要覧・認可申請書ー』フェリス女学院 150年史編纂委員会 2012.9.28
- ・武蔵大学人文学会『武蔵大学 人文学会雑誌』第44巻第1、2号 武蔵大学人文学会 2012.11.30
- ・日本ディルタイ協会『ディルタイ研究』第23号 日本ディルタイ協会 2012.11.30
- ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室『教育史研究室年報』第18号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室 2012.12.1
- ・慶應義塾大学大学院社会学研究科『人間と社会の探究ー 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第74号 慶應義塾大学大学院社会学研究科 2012.12.20
- ・日本教育史学会『日本教育史学会紀要』第三巻 日本教育史学会 2012.12.20
- ・明星大学戦後教育史研究センター『戦後教育史研究』第26号 明星大学 2012.12.20
- ・大学教育学会『大学教育学会ニューズレター』No.92 大学教育学会 2013.2.1
- ・「立教学院史研究」編集委員会『立教学院史研究』第10号 立教大学 立教学院史資料センター 2013.2.20
- ・武蔵大学人文学会『武蔵大学 人文学会雑誌』古橋信孝教授 記念号 第44巻第3号 武蔵大学人文学会 2013.2.28
- ・武蔵大学人文学会『武蔵大学 人文学会雑誌』第44巻第4号 武蔵大学人文学会 2013.3.14

- ・中央大学史料委員会専門委員会『中央大学史紀要』第18号 中央大学史料委員会専門委員会 2013. 3. 15
- ・中央大学史料委員会専門委員会『中央大学史資料集』第25集 中央大学入学センター事務部 大学史編纂課 2013. 3. 15
- ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教育科学専攻『教育論叢』第56号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教育科学専攻 2013. 3. 21
- ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科『名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 紀要』第59巻第2号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 2013. 3. 31
- ・筑波大学『教育学系論集』第37巻 筑波大学人間系教育学域 2013. 3. 31
- ・玉川大学教育博物館『紀要』第10号 玉川大学教育博物館 2013. 3. 31
- ・大学教育学会『大学教育学会ニュースレター』No. 93 大学教育学会 2013. 4. 10
- ・大学教育学会『大学教育学会誌』第34巻第2号 大学教育学会 2012. 11.

事務局からのお知らせ

1. 理事選挙実施について

6月から7月にかけて理事選挙を実施いたします。(なお、新たに選出された理事によって、次期の代表理事・機関誌編集委員の選挙が行われます)。つきましては、会費納入並びに住所・所属等の変更がお済みでない方は、すみやかにお手続きをお願いいたします。

2. 書評委員の選出について

2013年3月理事会にて次年度書評委員を選出いたしました。選出された委員は以下の通りです。

■第57集書評委員

- 日本：荒井 明夫 (大東文化大学)
- 湯川 次義 (早稲田大学)
- 前田 一男 (立教大学)
- 西洋：小玉 亮子 (お茶の水女子大学)
- 山内 規嗣 (広島大学)
- 東洋：一見真理子 (国立教育政策研究所)
- 佐藤 由美 (埼玉工業大学)

3. 会費納入のお願い

2012年9月より第56回大会年度がスタートしております。今年度及び過年度会費をお支払いいただいていない会員には、振込用紙を同封させていただきました。すみやかな納入にご協力ください。

なお、年会費は「ゆうちょ銀行」(郵便局口座)からの自動引き落としにより納入できます。会員のみなさまの便宜と事務効率化のために、協力をお願いします。自動引き落としをご希望の方は事務局まで申し出てください。必要書類をお送りします。

4. 会員登録変更等について

事務局や機関誌編集委員会などからの学会事務にかかわる連絡においては、ご登録いただいた連絡先を使用させていただいていますが、宛先がちがいで戻ってくることがけっこうあります。ご登録いただいた連絡先に変更等が生じた場合、忘れずに事務局までご一報ください。

2013年5月
学会事務局 新谷 恭明

教育史学会 会報 No. 113 2013年5月25日

編集・発行 教育史学会事務局 新谷恭明
〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目19-1
九州大学大学院 人間環境学研究院 教育学部門
新谷研究室 気付
電話 092 (642) 3112
電子メール jseh@yahooroups.jp
郵便振替口座 00140-0-552760 教育史学会事務局

印 刷 城島印刷株式会社